



わか草

處女の日記より
美 知 代

安達さんが持つて来て被下つた御本私には讀めやしない、
け共私那麼事お恥しくて云へないし、左様かと云つて直ぐお
返するのも嫌なんだから、悪いけ共つい虚言をついて皆な
拜見致しましたつて、屹度感心して被居るに違ひない、彼の方
は何時でも私計り御覽なすつて、何だかお氣に入つてる様よ
それは安達さんは好い方：：けども何だらう、何故私の胸は
這麼に重苦しくせつないのか、何故又あの天空を自由にかけ
る鳥が那麼に羨しいのか、私にだつて飛べると思ふ、飛ぶつ
て何處へ、知らない、只何處か遠くへ行き度い、而して這麼
事を思ふのは罪かしら、私には父様もあり母様もある、其間
に愛が無いのか、子として勿躰なく假りにと空恐しい言葉だ
けれど、正直私は心から敬愛する事は出来ないんだもの屹度
私は大罪人よ、だから這麼に悲しいんだわ、遺瀨無いんだわ
何かしら力ある手が私を壓しつけて、恰度囚屋の中に入れても入
つて居る様に、壁も何も最早直ぐ倒れて落ち掛り相だ、誰に依
つて私は愛の満足を得やうかしら、周曲の人は皆な冷い、父
様は私を御非難なすつて、猫だの犬だの動物の外何をも愛さ
ないと仰有るが、よく考へて見なくちや不可ない、併し私

は那麼に冷淡な女じゃない：：私はまだ何うも石島さん
しくて、何故だか譯は知らないけ共、これで私世間普通の女
學生とはちつと違つて居る心算、本當に着實な親切相な方で、
時によると随分嚴格なお顔をなさる、一寸にはお心も解ら
ないしお恥しいんだけど、安達さんとは全く別な氣持で、私
御遠慮も無く、終日だつて御一所にお話出来るわ、だつて先
方でも何時も石島さんのお話なんぞなすつて、彼様な恐しい
實歴を御聞せなさるんだもの、私昨夜彼の方が懷劍をぬいて、
これから貴嬢を殺して自分も死んだふと仰有つた處を夢に見
た、何と云ふ馬鹿な夢だらう。

吁私は何故這麼に石島さんの事計り考へるのか、石島さん
が被入つて、強てお勉めなするのでは無く樂し相にして被居
る時、私はそつと見入つて、只夫れ丈けて本當に嬉れしい、
而してお歸りの後は其言葉を探返し繰返し、何とも云へぬ
氣持に、終には自分と自分をもて餘すので。

今日乞食婆さんに白銅一つ遣した。すると婆さん、お嬢様
の悲し相て被居る事と云つたが、思ひ掛けも無い、私はまあ
那麼様子に見へるのか知ら、屹度これは獨りぼつちで何時も
何時も淋しく計り暮す故だわ、だつて先方から求めて来る様
なのは皆な氣に入らないし、此方て求めるのはさつさつと行つ
ちまふんだもの、誰一人心からの友と云ふは無い。

私まあ今日は如何したと云ふんだらう、頭腦が亂れて亂れ
て、いつそ打伏して歎願し度い、誰に、如何して、それは知ら
ない、只何かしら責め立てられる様な氣がして涙はとめども
なく溢れる、最早靜座しては居られない、お、神様、此惱ま

しの胸を和げ給へ、全能のあなたの外に頼り奉るべきは御座いません、神様願はくは哀れなる私を顧み給へ！

石島さん石島さん、石島さんは何を考へて被居るのだらう私はそれが知り度い、別に隠し立てをなさるではなし、お話なんぞ客易く出来相に見えるのだけ共、私には何も解ならい時にはじつと私をお見入りなすつて、求める様な眼差をなさる事もある、がそれは私の邪推かも知れぬ。因さんは相變らずお困らせなさるんだもの、私怒つたふ、一躰如何し度いつて仰有るんだか、私を何して被居るんだわ……けども私は嫌だ、だつてお喜代さんにも戀して被居る、私如何したつて彼様な方と合やしない。

私筆は執つたけ共如何書き出して好いのか、本當に思ひ掛けもなく彼の方は今日庭で私にお話しかけなすつた。甚麼に親しく打解けた御様子だつたらう、私共はずつと遠い昔からの馴染で、それがふと邂逅つたかの様、石島さんは正直な方で、私は這麼人は初めて、決して世間の人の様に好い加減な虚言は仰有らない、安達さんも好い方の、學問に掛けては一段上手の様に見えなさる、けれ共石島さんの御話しなさる時の御様子と云つたら……それにお話しなさる計りじや無い、必ず言行一致で、其行の美しい事。私は何故這麼に急に打解けなすつたのか不思議で不思議で、兄弟でもこれ程ではあるまい、吁考へると本當に嬉しい、最初御目に懸つた時は、お互にかく迄相觸れる關係を生じ様とは夢にも思ひ設けなかつた、而して今……私の胸は穩かに静まつて、最早何も書く事は無い、只お互に度々相逢ふとそれだけ！

因さんは離座敷の書齋に引籠つておしまひだし、安達さんも左様度々被入らなくなつて……考へるとお氣の毒な、併し私安達さんとお話するのが好きで、因さんとは大分違ふ、如何様因さんは美男子で、何處迄もお立派だ、けども因さんだつて、安達さんだつて……私の胸は最早定つてゐる。

此頃石島さんのよく被入る事、だけれどもまあ私の何處がお氣に入つたんだらう、私共の趣味の合つてゐる事は事實だ、け共斯様して居る内に日は過つて、やがて別れなければならぬ時は来る、ともあれ石島さんの此地に被居る間丈けても、斯様してお親しく御交際申した事は、私甚麼に嬉敷いだらう、母様もお賛めなすつて、些少も生意氣ぶつた處の無い好い方だと仰有る、併し母様はまだ全く解つて被居らない様だ、それに芳衛つてお名前が氣に入つてよ、これから何時でも芳様とお呼び申すから好い。け共今年二十才にも成つた私が、まだ人を戀した覺えが無いなんて、考へると随分だわ、兎に角芳様も私も二人共同じ花を好きで、今朝私が薔薇を摘んで、葉が一枚落るといきなり拾つてお仕舞ひなすつた……だから私皆な差上げつた。

昨日芳様被入つて久しくお遊びなすつて、お歸りは暮れて居た、私最早嬉れしくて嬉れしくて。

月日は流れる……け共私は幸福よ、神様感謝致します、嗚呼何と云ふ好いお天氣だらう。

如何しても昨日の事が忘れられない、彼の遊山の歸りに出て來た恐しい亂暴者を、芳様は毬の様に流れの中へ投げ込んでお了ひなすつた、まあ其働きの立派さ！け共後に溺れる

と可哀相だ、助けてお遣りなさいつて母様が仰有つた時、何今に自分で泳いでせうつて、知らん顔をして被居るんだもの私餘りだと思つて、でも何だが後には極り惡相にして被居つて、悪く思つてやしないかつてお聞きなすつた、決して慘酷な方じや無い、人生は無骨な仕事だつていつか仰有つた、安達さんに話すとそれは違ふつて、何方が本當なんだが、け共其日の樂しかつた事、じつとお傍に引添ふての逍遙……何と云ふ嬉れしさであらう。

久しく此日記に筆を執らなかつた、だつて私書き度くなかつたんだから仕方がない、よしんば強て書いたにしても、それは屹度私の心を有りの儘に寫す事は出来なかつたと思ふ。私芳様と種々の御話して、御方針から御計畫からすつかり伺つて了つた安達さんが被入つて、何だかお瘦せなすつた様に思ふそれにお顔色も悪い様だ、安達さんは私が因さんに冷淡で、餘り思ひ遣りが無いつて仰有る、本當に私彼の方の事なんか些少も思はなかつたわ、だつてそれ處じや無いんだもの、又お目に懸つた時ようくお詫申さなくちや、併し私夜分よく眠れないから頭が悩んでいけない。

あゝ私の上には夜は明け掛つた、神様哀れみの御手を置き給へ……私は彼の方を戀します。

